

令和4年地域公共交通優良団体として 富山県氷見市ほか3NPO法人が 国土交通大臣より表彰されました

令和4年7月22日(金)に「令和4年地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰式」が行われ、地域公共交通に関する取組みについて、他地域の模範となるような顕著な功績があったとして、富山県氷見市・特定非営利活動法人八代地域活性化協議会(富山県)・特定非営利活動法人余川谷地域活性化協議会(富山県)・特定非営利活動法人上庄谷地域協議会(富山県)が国土交通大臣より表彰されました。

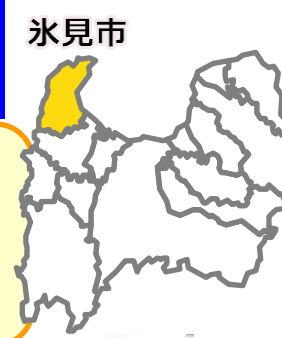
北陸信越運輸局管内では、表彰実施初年度の平成21年における安曇野市地域公共交通活性化協議会を皮切りに、同23年の三条市地域公共交通協議会、24年の珠洲市地域公共交通活性化協議会、25年の魚津市公共交通活性化会議、26年の松本市地域公共交通協議会、27年の富山市都市交通協議会、及び令和元年の富山県朝日町と受賞が続き、今回が11団体目の受賞となります。



【功績概要】

地域住民を会員とする住民主体バスを市内全域で導入するとともに、全世帯一律の費用負担等地域の実情に応じた安定的な収入を確保するための仕組みを構築することにより、長期にわたり路線維持を実現するなど地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ。

氷見市、特定非営利活動法人八代地域活性化協議会、特定非営利活動法人余川谷地域活性化協議会、特定非営利活動法人上庄谷地域協議会 (富山県氷見市)



- ✓ 市営、民間バスの撤退を機として、地域住民を会員とする3つのNPO法人による住民主体バスが市内全域で生活交通として機能。
- ✓ 稼ぐインセンティブ付与等の行政による制度的工夫、安定的な収入確保のための住民による工夫等の官民協働による取組みを通じ、最長16年の長期にわたり、必要不可欠なバス路線を安定的に維持することを実現。

(取組の概要)

1. 多様な主体の実質的参画

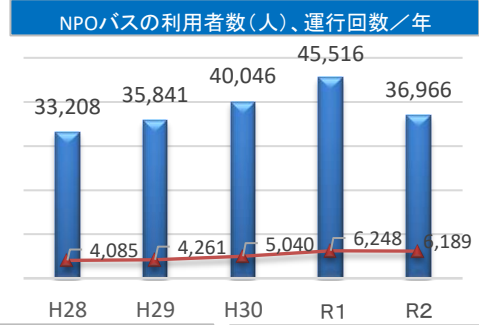
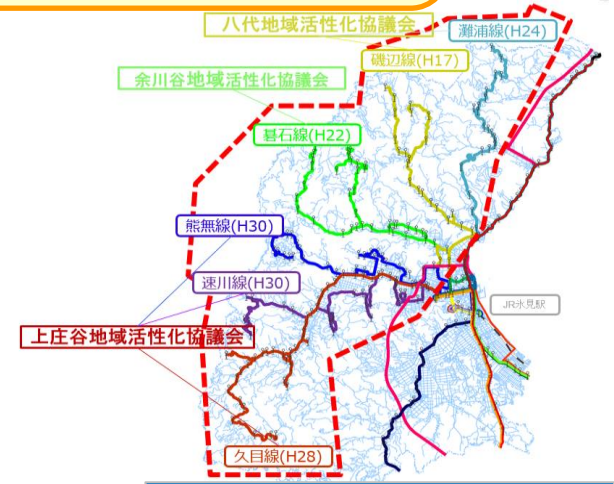
- 市が主導的な役割を果たし、住民主体バスの設立に尽力。
- 設立後は、運行費等の補助による関与や助言等の関与を継続しつつも、法人の自主性を尊重することで住民の積極的な関与を促進し、マイバス意識を向上。
- 法人としても、協議会等で住民ニーズを聴取し、各地域のニーズに応じた運賃設定等自主的な工夫や運営。
- 法人間でも行政を交えた連絡協議会を定期的に開催し、それぞれの法人の課題共有等を実施。

2. 創意工夫

- 行政として、廃止代替に際し、地域住民のニーズに応じた運行形態の提案等を行うとともに、運行コスト・住民負担等の案を示すなどによりコスト意識・負担に対する受容性等を醸成。
- 運行経費の4~5割を自ら確保することを補助金支出の要件とすることで、法人が稼ぐインセンティブを付与する等の制度的工夫。
- 法人では、高齢者への生活支援やパトロール、学校でのMMなど、様々行う日々の事業の中で住民の生のニーズを把握。
- その上で、例えば、免許返納の意向を有する高齢者に対して、返納手続のサポートをするとともにNPOバスの利用を案内する等により、新規利用者を獲得する工夫。

3. 自立性・継続性

- 法人として、世帯一律の費用負担(2,000円/戸)等の住民負担や、事業所付近にバス停を設ける等の工夫を通じた賛助会員の獲得により、一定額を安定的に確保。
- 商店の看板設置等のPR活動、住民の家屋修理、パトロール活動、防災のためのヘリポート設置等地域のための様々な活動を無償で実施。こうした活動については、総務大臣表彰「ふるさとまちづくり大賞」、消防庁長官「防災まちづくり大賞」等の実績。
- 様々な活動を通じて法人に対する安心感や信頼感等の醸成を図るとともに、バス事業を含む法人トータルの価値を向上することで、バス事業に対する負担についても理解を得ている。
- 官民の協働/役割分担により、最長16年にわたり運行が継続され、市内他地域にも横展開。



総務大臣表彰「ふるさとまちづくり大賞」



熊無線 (H30) 運行開始



平成27年度ふるさとづくり大賞 団体賞 (総務大臣賞) 受賞